

経営比較分析表（令和元年度決算）

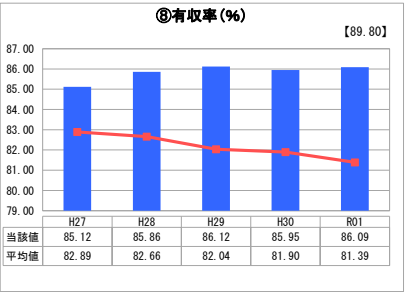
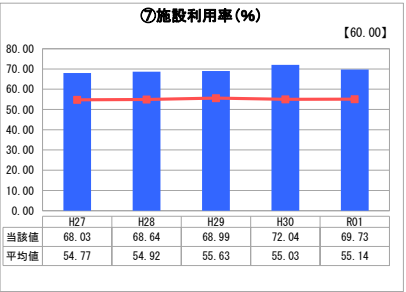
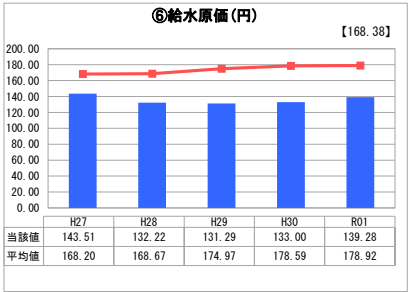
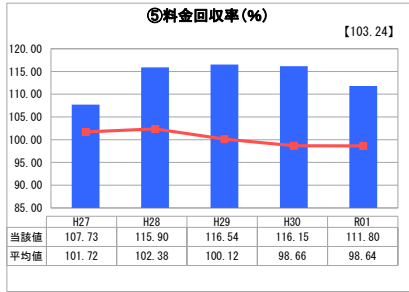
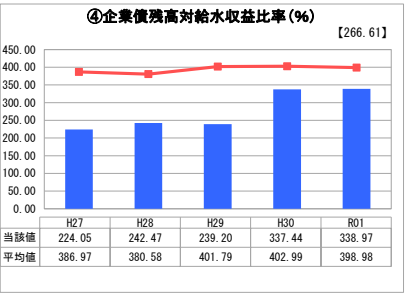
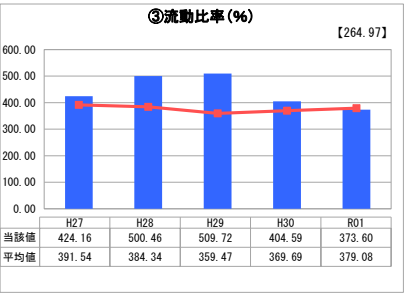
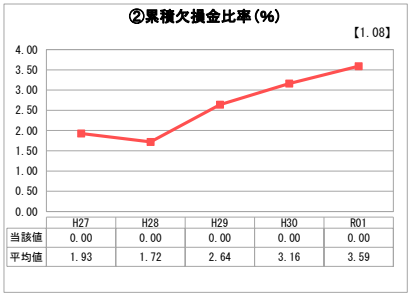
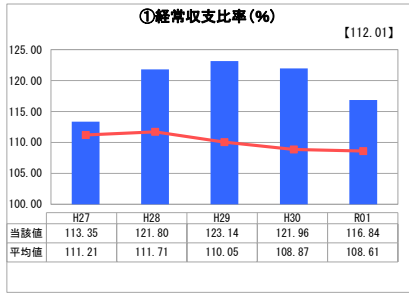
大分県 杵築市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	64.63	71.87	3,190	

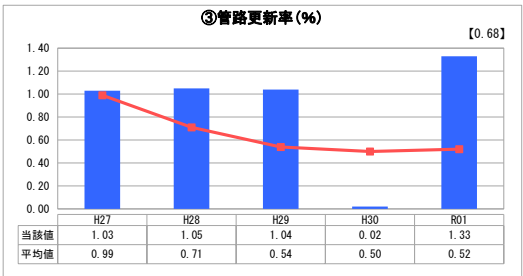
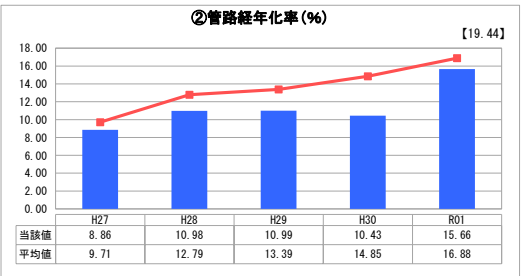
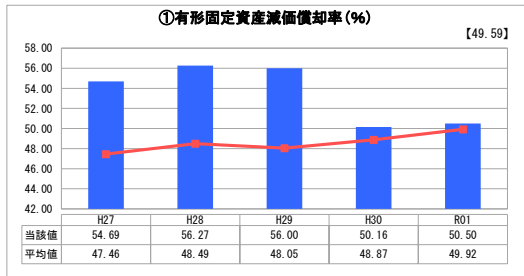
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
28,873	280.08	103.09
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
20,617	65.50	314.76

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について
- ①『経常収支比率』…経常費用が経常収益でどの程度補われているかを示す指標。100%を上回っており、この指標においては、健全な経営状況にあるといえます。
- ②『累積欠損金比率』…累積欠損金は、発生しておらず、良好な状態にあります。
- ③『流動比率』…流動負債に対する流動資産の割合で、短期債務に対する支払能力を表す指標。100%を上回っており良好です。
- ④『企業債残高対給水収益比率』…給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標。類似団体平均値より下回っていますが、老朽管の更新や現在検討中の新浄水場建設の見直し内容により、増加することが予想されます。
- ⑤『料金回収率』…給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標。100%を上回っていることから、必要な経費を給水収益で賄えているといえます。
- ⑥『給水原価』…有収水量1m³あたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標。類似団体平均値及び全国平均と比べて低く抑えられています。
- ⑦『施設利用率』…配水能力に対する配水量の割合で、施設の利用状況判断する指標。高い水準で推移しており、良好であるといえます。
- ⑧『有収率』…施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標。類似団体平均値に比べて高い水準で推移していますが、全国平均を下回っており、引き続き上昇に向けた努力が求められています。
2. 老朽化の状況について
- ①『有形固定資産減価償却率』…有形固定資産のうち、償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標。H30以降、簡易水道事業の統合により、大きく償却率が低下しています。また、R02以降、全簡易水道事業の統合により、さらに低下が予想されます。配管等の老朽化が進行していることから、今後計画的な更新が必要とされます。
- ②『管路経年化率』…法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標。老朽化に拍車がかかっていることが読み取れます。今後、老朽管の計画的な更新が求められています。
- ③『管路更新率』…当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標。更新率が大幅に上昇しています。その要因として、前年度の簡易水道事業の一部統合に伴い、管路延長が大幅に伸びたことから管路更新率が大きく低下したこと、さらには前年度に増して管路更新を行ったことによるものです。

全体総括

現時点では、経営の健全性、施設の効率性は概ね確保されているといえます。しかしながら、南海トラフ大地震等の災害が想定される中、老朽化した浄水場の更新や法定耐用年数を超えた配管の布設替を如何に行うかが喫緊の課題となっています。今後は、給水人口の減少による給水収益の低下等も考慮しながら、アセットマネジメントの実施、経営戦略の策定を通して、安定的な経営に資する適正な料金改定が必要となっています。